

# 「追悼」立石義雄名誉会頭のご逝去



2019年5月撮影

去る4月21日、本所前会頭の立石義雄名誉会頭が逝去されました。

立石名誉会頭は、平成10年から副会頭を9年間務められた後、当時の村田会頭（現名誉会頭）からの後継指名を受けて、平成19年から本年3月まで、第16代会頭として約13年にわたり京都の発展に寄与されました。

会頭就任以来、地域経済の発展を実現するためには、中小企業の活性化が不可欠であるという信念のもと、「知恵産業のまち、京都の推進」を基本方針に掲げるビジョンを策定し、知恵ビジネスを多様な産業群として集積させる取り組みを進めてこられました。とりわけ、昨年3月、経済界の悲願であった京都経済センターのオープンを実現できたことは、立石名誉会頭の輝かしい功績です。本年3月末まで会頭として第一線で京商の陣頭指揮をとられ、「オール京都の要」として、持ち前の太陽のよくな明るさと卓越したリーダーシップで我々を導いてくださいました。

ここに深く哀悼の意を表します。

京都商工会議所は、立石名誉会頭が遺されたご功績を引き継ぎ、京都経済の発展と会員企業の成長を支えるべく、これまで以上に力強く邁進して参ります。

3月に開催した議員総会後の記者会見にて、晴れやかな笑顔で会頭交代を発表いただいたばかりであり、事態の急変に大変驚いております。永年京都経済界を支え、牽引してこられた重鎮を失い、深い悲しみに包まれています。

常々仰っていた「人の幸せをわが喜びとする」という信条を真直に実践され、京都のため、そして京都で働き、学び、暮らす人々の幸せのために身を捧げてこられました。分け隔てなく温かく人に接し、全力で対応される、そのお姿に多くの皆様が敬愛の念を抱いておりました。

残された私たちは、立石名誉会頭の数多のご功績をしっかりと引き継ぎ、未来の京都を担う知恵産業の創造に向けて、微力ではありますが、一致団結してオール京都で取り組むことを誓い申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

京都商工会議所

会頭 塚本能交

2007



**会頭就任**

『『知恵産業のまち・京都』の推進』を基本方針に、『ニュー京商ビジョン』を策定。ビジョンに基づく会議所運営が始まった。

◀2007年5月の会頭就任時 村田前会頭(現名誉会頭)と

2008

**知恵産業の取組が本格始動**

知恵産業の「見える化」に向け様々な事業が始まった。

2009



**会員事業所訪問運動を開始**

会頭自ら京商を支える会員事業所へ外向き、意見交換を行った。会頭退任までに123の事業所を訪問。

◀会員事業を自ら訪問することをライフワークとしていた(2009年7月撮影)

2010

**2期目がスタート**

知恵ビジネスプランコンテストを開始するなど、知恵産業の「誘発」に向けた取組がスタート。

2011



**「東日本大震災 京商支援本部」を設置**

被災地域を自ら訪問し、遊休機械を被災地へ送る活動に取り組むなど、被災した企業に手厚い支援を実施。

◀被災地へ送った遊休機械を視察(2013年7月撮影)

2012



**京商創立130周年記念事業を実施**

市民にも参加いただける「京都産業まつり」を開催。累計で12,000名の来場者をお迎えし、大いに賑わった。

◀「京都産業まつり」開会の挨拶

2013

**3期目がスタート／「京都ビジョン2040」を策定**

「知恵の連鎖」を生み出す取組がスタート。また、オール京都で将来のあるべき姿をまとめた「京都ビジョン2040」を策定。会員数が12年ぶりに12,000件を突破。

2014

**京都経済センター建設 基本合意**

京都経済センターの建設について関係6団体が基本合意。

2015



**京都経済センター 平成30年度の完成を目指すことで合意**

基本合意をもとに構想が一気に具体化、完成の時期が示された。

◀「京都経済百年の計」京都経済センター

2016



**4期目がスタート／文化庁の京都移転が決定**

知恵ビジネスを多様な産業群として集積させる「知恵産業の森」形成を目指す取組がスタート。また、文化庁の京都への移転が正式決定し、2017年には「文化庁地域文化創生本部」が設置された。

◀文化庁地域文化創生本部 除幕式

2017

**京都経済センター起工式／旭日重光章を受章**

京都経済センターの建設に着工。また、長年にわたる功績により旭日重光章を受章。

2018



**「一般社団法人 京都知恵産業創造の森」設立**

京都経済センターの運営を担う「(一社)京都知恵産業創造の森」を設立し、初代理事長に就任。

◀知事・市長らと「知恵森」設立記者会見に臨む

2019



**京都経済センター グランドオープン 5期目がスタート**

構想から約10年を経て京都経済センターがグランドオープン。集積した知恵をさらに開花させる取組がスタート。

◀職員とともに京都経済センターからのさらなる飛躍を誓った

2020



**会頭退任／名誉会頭に就任**

塚本新会頭へバトンタッチ。名誉会頭に就任。

◀記者会見で塚本新会頭と固く握手を交わす

**■ 会頭時代の足跡を辿る**

立石会頭時代の主な出来事をご紹介します。

京都府知事  
西脇隆俊氏

京都市長  
門川大作氏

日本商工会議所会頭  
三村明夫氏

大阪商工会議所会頭  
尾崎裕氏

神戸商工会議所会頭  
家次恒氏

京都経済を牽引されてきただけでなく、オール京都の体制づくり、京都経済センターの開設、文化庁の完全移転も立石さんのリーダーシップがあつて実現できた。3月末にお会いした際には、新型コロナウイルスが収束したら、V字回復のためにオール京都で頑張らないといけない、手を携えていきましようという力強く語っておられたところの悲報であり、本当に残念でならない。

経済、文化を力強く牽引されてきた立石様がおられなければ、今の京都はありません。本当に無念で、悲しく、寂しい限りです。新型コロナウイルス感染症による厳しいこの難局を、立石様が牽引された京都経済界をはじめ、市民の皆さんと共に必ず乗り越え、立石様がこよなく愛された京都の未来のために全力を尽くすことを心からお誓い申し上げます。

地元経済の発展や観光振興等に尽力されるだけでなく、京都経済百年の計を目指し、自らのライフワークとして「京都経済センター」の完成まで漕ぎ着けられたことは記憶に新しい。また、日商副会頭としてもご活躍され、わが国産業政策の数々の分野に「中小企業」や「地域」の視点盛り込む端緒を切り開くなど、わが国中小企業の活力向上に果たされた役割は大きい。

関西全体の活性化のために大阪・京都・神戸三商工会議所が連携して、中小企業の支援、スタートアップ・ベンチャーなど、新規産業の育成に取り組んでいますが、その中心に、いつも熱い思いと温かい心で我々を引っ張って行かれる立石さんがいらつしやいました。京都のしごと、文化、街そして人が大好きだった立石さんを失って、とても寂しく感じています。

チャレンジ精神と社会に貢献する創業DNAを誰よりも大切に、名実ともに京都そして日本を代表する企業人として活躍されました。業界の発展のみならず、文字通り京都の産業活性化や文化振興などの陣頭指揮にあたられました。私自身も多くの場面で一緒に、つい先日までその笑顔とバイタリティ溢れるお姿に接していただけに、信じがたい気持ちでいっぱいです。